

基盤整備 委員会

重点調査項目

- ① 自然資源を活用した新エネルギー導入
- ② 公共物（道路・水路・橋梁・水道管など）の効果的な運用

重点調査項目2項目について先進地視察

（平成24年10月14日～16日）

○ 自然資源を活用した新エネルギー導入
 「八丁原地熱発電所」
 大分県玖珠郡九重町・九州電力(株)八丁原発電所にて、地熱を利用した発電施設を視察。

発電能力を高く維持するために、数多くの温泉井戸を掘らなければならぬ。蒸気とともに熱水も出てくるため、汽水分離装置により発電に使わない熱水は温泉入浴等観光施設に利用している。

また、低温の温泉を活用するバイナリー発電施設も併設され、今後の展開について話を聞いた。

近年の地球温暖化対策や原発問題を考えたとき、自然資源を活用した発電は半永久的で安定しており将来性が見込まれるが、採算面で初期投資費用とラン

ニングコストが課題となる。



地熱発電を行っている八丁原発電所

○ 公共物（道路・水路・橋梁・水道管など）の効果的な運用
 「下水道長寿命化計画」を策定している別府市を視察
 別府市は平成22年度に下水道長寿命化計画を策定。

管きよの現況調査については、地中のため安全確認が困難であることから、下水道事業団へ委託している。また、計画策定については国の補助も活用している。

高山市は宮川終末処理場の施設設備につい

て整備計画を策定し順次更新しているが、管きよは昭和47年度供用開始で、耐用年数以外にも腐食の進行や不明水の流入など課題が多い。昨年度には管きよの事故も発生し、市民生活の安全安心の観点から早期の寿命化計画

策定とそれに基づく効率的・効果的な維持修繕が必要と考える。また、道路、橋梁、水路、上下水道管や他の公共施設等を含め、早期の統合型GISの導入で全庁的に情報共有および管理に取り組み必要がある。

大規模太陽光発電施設



飛騨産業株式会社の太陽光パネル8,500㎡の本社工場屋上に、幅1.6m×0.9mのソーラー発電パネル2136枚を設置し、年間415,300kwを発電

冬季は積雪のある高山市で太陽光発電がうまく機能するかどうか新エネルギーの現状調査を深めるため、12月14日、高山市漆垣内町にある飛騨産業株式会社の太陽光発電施設を視察。

太陽光パネルによる年間発電は42万kw（一般家庭120世帯）を見込む。冬季の11月から年明け1月までの3か月間は、平均月の半減となるものの、年間通しては安定的な発電ができる。また二酸化炭素排出量の削減が大きく期待できる。

今後、高山市清見町では、さらに大規模な太陽光発電設備が計画されており、自然資源を活用した新エネルギーの導入がさらに推進される。



別府市役所での視察